

紙版 **ハコブネ×ブックス** vol.32

<https://hakobune.wp-x.jp>

ハコブネ×ブックスは児童文学作品・YA作品を未来に語り継ぐwebサイトです。



冒険は月曜の朝

作者 荒木せいお
出版社 新日本出版社
発行 2018年9月
ISBN 978-4406062763

review



平日の月曜日の午前中、小学六年生の同級生の女子と男子が二人だけで電車に乗り、河口湖へ向かっています。土曜日に行われた学校行事の振替休日だからサボっているわけじゃないけれど、怪しまれないように兄妹のフリをしている、どこかおかしな二人組。風花（ふうか）は、河口湖に住む、赤ちゃんを生んだばかりの叔母さんを励ましたいと考えていました。叔母さんを訪ねたいけれど一人で電車に乗ることができない風花は、鉄道に詳しい男子、賛晴（さんせい）にルートを教えてもらおうとしたところ、何故か彼は自分もついていくと言い出したのです。衝動的で思い込みの強い風花と、どこかボケている賛晴のやりとりが楽しい物語です。旅の途中での出来事やトラブルへの二人の反応がいちいちユニークすぎて面白い。**ハイセンスなユーモア**に注目です。

特集

子どもだけの旅

かわいい子には旅をさせよ、ということわざは、子どもが可愛いなら旅行に連れて行ってあげましょう、という意味ではなく、**あえて辛い目にあわせましょう**というモラハラめいた教育的指導です。人生が、旅に喩えられることがあるように、旅とは困難を伴う挑戦です。ただの観光旅行であつても、大人に連れて行ってもらうのではなく、**子どもだけ出かける**となるとハードルは上がり、不安と期待が入り混じります。それはもはや**旅と呼ぶべき訓練**です。自分たちで計画を立て、旅程を決めて、電車の乗り換えルートも事前に調べ、どんなに入念に準備をしても、**思わぬ出来事**が起きるのが旅の醍醐味です。そこにはいくつもの出会いと別れがあり、新しい世界を知ることになります。目的地に向かう旅の行程自体が物語になる**ロードムービー**のように、児童文学もまた、**子どもだけの旅の空**を美しく映し出していきます。



星屑すぴりっと

作者 林けんじろう
出版社 講談社
発行 2022年8月
ISBN 978-4065287712

review



広島県尾道市に住む中学生男子、十三歳のイルキが、友だちのハジメと二人だけで京都へ向かったのは、映画を手に入れるためでした。闘病生活が続ける年長の従兄弟、星一郎が見たがっていた映画は、彼が学生時代に脚本を書いた自主制作映画だと確信して、京都で開催される歴代の学生映画上映会に向かうイルキ。**青春18きっぷ**を手に入れて、在来線を乗り継いで約十時間の**いかつい旅**。難病で映画製作の勉強を断念した心優しい従兄弟が、完成作を見ないままだった映画を見せてあげたい。一途な想いがイルキを旅立たせず。不安ながらもワクワクする**大人びた挑戦**です。旅の途中で、同行したハジメにもまた複雑な心の事情があることをイルキは知ります。無償のラブに突き動かされて旅をする少年たちのいじらしい姿が、映画の一場面のように浮かんでいきます。



よりみち3人修学旅行

作者 市川朔久子
出版社 講談社
発行 2018年2月
ISBN 978-4062205276

review



小学校卒業の半年前に転校したために、前の学校でも、新しい学校でも、**修学旅行に参加できなかった少年**、天馬（てんま）。小学校を卒業して、中学校入学を前にした春休み、天馬は転校した小学校で唯一の友人であった柊（しゅう）に誘われて、やはり同じクラスだった風知（ふうち）と一緒に、**男子三人で旅に出る**ことになりました。三人には、それぞれの事情で修学旅行に参加できなかった共通点がありました。風知の両親は離婚しており、離れて暮らしている彼の父親に会いに行くことが、この旅の目的です。しかも、この旅で風知は、特急電車に乗り目的地に向かいながら、見知らぬ人、十人から寄せ書きをもらうという**ミッション**を父親から与えられていました。困難な課題をこなしながら旅をする少年たちは、寄せ書きを書いてくれた行きずりの人たちの**束の間の邂逅**に思いを巡らせていきます。



ここではない、どこか遠くへ

作者 本田有明
出版社 小峰書店
発行 2021年7月
ISBN 978-4338308069

review



小学六年生の仲の良い四人組、**アニマルズ**。猪口、美馬、熊野、犬養、それぞれ名字に動物が入っている彼らは、自分たちチームをそう名付けました。名前だけでなく、家庭環境に恵まれていないことも四人は共通しており、結びつきを強めていました。そんな彼らが、夏休みに自分たちだけで旅に出る計画を立てます。北陸地方に住む四人が向かうのは、東京、千葉の御宿、仙台、松島、富士山を経て名古屋へ。曇りがちの**裏日本**から、太陽のふりそそぐ**表日本**へ旅に出る。四人の思い入れのある場所をめぐるポリリュームのある旅程です。旅の途中での色々な人たちの出会い、四人の心には兆はしていくものがあります。はしやぎながらも、それぞれに悩みを抱えた彼らが、**ここではない、どこか遠くで**、自分の大切なものを見つけ、心に刻んでいく夏の旅が鮮やかに描かれます。

特集
子どもだけの旅



それぞれの旅 (山口理) 国土社 2003年

かつての国内児童文学で、子どもだけで旅に出る理由の多くは、親や世の中への反抗心を募らせての**家出**でした。時代が変わり、**コンプライアンス的に難しいテーマ**になったからか、家出する少年が主人公の本書は今世紀ではレアな存在です。そんな旅する子どもたちの**それぞれの事情**はここから。



Twitter
連携しています。

@tomoostretch

紙版「ハコブネ×ブックス」vol.32

2022年11月1日発行 ●発行人 きむらともお

事務系社員。趣味で児童文学紹介サイト **ハコブネ×ブックス** (非営利) を運営しています。日本児童文学者協会第6回児童文学評論新人賞佳作他、諸々を受賞。